

SEEPS Policy Camp 2025

「日本のサーキュラーエコノミー政策が目指すべき姿」
プログラム・報告書

日時：2025/12/26（金）～2025/12/27（土）

主催：環境経済・政策学会（SEEPS）

共催：富山大学サステナビリティ国際研究センター（GRASS）



Table of Contents

- 開催趣旨
- 参加者
- 開催場所
- プログラム

開催趣旨

- ・環境政策の設計は環境問題の解決に重要な役割を果たしているが、実際に設計する政策現場とアカデミックな研究者の交流は限られているのが現状
- ・そこで、環境政策実務を一定程度経験した政府職員4名を招聘して、政策現場の仕事についての理解を深め、今後の交流促進に資する関係づくりを進める目的として開催した
- ・研究者サイドは、政策立案に関心のある若手研究者を公募し、5名が参加した

参加者

- ・ 学会担当者：
 - ▶ 京都大学大学院 地球環境学堂 教授 竹内憲司
 - ▶ 立命館大学 経済学部 教授 笹尾俊明
 - ▶ 神奈川大学 経済学部 教授 山本雅資
- ・ 政策担当者：
 - ▶ 環境省 環境再生・資源循環局 資源循環ビジネス推進室 室長 塚原沙智子
 - ▶ 環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 課長補佐 脇坂肇
 - ▶ 経済産業省 イノベーション・環境局 GX グループ 資源循環経済課 課長補佐 葉山緑
 - ▶ 経済産業省 イノベーション・環境局 GX グループ 資源循環経済課 課長補佐 今井美希
- ・ 研究者
 - ▶ メリーランド大学大学院（農業・資源経済学）博士課程/産総研 訪問研究員 二荒麟
 - ▶ 山梨英和大学 人間文化学部 助教 野村魁
 - ▶ ヒューマンアカデミー株式会社 グエン・チュン・ザン
 - ▶ 京都大学大学院 農学研究科 生物資源経済学専攻 博士課程 亀崎萌衣
 - ▶ 近畿大学 経済学部 准教授 石村雄一
- ・ 学会オブザーバー：立命館大学 経済学部 准教授 中井美和



参加者の集合写真

開催場所：富山市概要

- ・ **地勢と人口：**
 - ▶ 面積：1,241.70km²
 - ▶ 人口：413,938人
 - ▶ 世帯数：171,917世帯
 - ▶ 平成8年には旧富山市が中核市に移行し、平成17年4月には富山市、大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村が合併し、新しい「富山市」が誕生
- ・ **産業：**富山は「くすりのまち」として有名だが、アルミやガラスなどの産業も売薬事業に支えられて発展してきた歴史をもつ
- ・ **都市政策の面では、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトシティ政策で知られている**



プログラム1日目 (2025/12/26)

10:45～12:15	富山市視察 富山市役所 都市計画課 課長 佐野正典氏「富山市コンパクトシティ政策の歴史について」
13:30～16:00	株式会社HARITA 射水リサイクルセンター視察 代表取締役 張田真氏による企業案内と工場視察
16:30～18:30	富山大学五福キャンパス (富山大学GRASS 和田直也センター長合流) 研究プレゼン1 (趣旨説明・司会 山本雅資) (1) 野村魁 「家庭系廃棄物の有料化と排出行動への影響：価格差に着目した分析」 (2) 亀崎萌衣 「料金設計のための仮想評価法 (CVM) 活用： サーキュラーツーリズムへの応用と合意形成支援」 (3) 二荒麟 「Sustainable design としてのEV Charger 投資効果の分析」



富山市・佐野氏によるご講演の様子



株式会社HARITA 代表取締役 張田真氏による企業案内の様子



株式会社HARITA 射水リサイクルセンター 視察の様子

プログラム2日目 (2025/12/27)

9:00～10:00	<p>富山国際会議場 政策現場からの課題プレゼン（司会 竹内憲司） 環境省「資源循環行政の動向と資源循環ビジネスの推進について」 経済産業省「成長志向型の資源自律経済の確立に向けた取組について」</p>
10:00～11:30	<p>研究プレゼン2（司会 笹尾俊明） (1) グエン・チュン・ザン「アジア視点から見た日本のCE政策：技術と制度のギャップ」 (2) 石村雄一「循環経済における廃棄物分別行動とナッジの有効性」 (3) 中井美和 「サーキュラーエコノミーとサステナブル投資—金融インフラの観点から—」</p>
11:30～12:30	ディスカッション（モレーター 山本雅資）
12:30	閉会挨拶（山本雅資）



環境省・脇坂氏による報告の様子@富山国際会議場



閉会挨拶の様子